平成23年度宇都宮市学習と生活についてのアンケート（宇都宮市立清原北小学校2年）

■分析と今後の指導上の工夫

- ・ 「勉強が好きか」という質問に対し、全員の児童が好きと答えており、教科ごとの質問にもほとんどの教科において市の平均を上回っている。また、授業に対する取り組みや勉強に対する気持ちや態度、勉強の仕方についても、ほぼ市の平均を上回っている。特に、「先生や友達の話最後まできちんと聞いている」「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加する」では、市の平均を大きく上回っており、高い学習意欲をもって生活していることが分かる。反面、「授業に必要なものを忘れずに持ってくる」の割合が低い傾向にある。連絡帳の確認を徹底すること及び家庭への協力呼びかけを継続していきたい。
- ・ 「学校で先生や友達にあいさつしているか」は、ほとんどの児童が「はい」と答えており、自分では、学校でよくあいさつをしていると感じているようであるが、声の大きさや相手よりも先にという点では、もう一歩である。そのため、家の人や地域の人へのあいさつがやや低い傾向にある。自分から誰にでも自信をもって明るいあいさつができる児童の育成を目指し、今後も指導をしていきたい。
- ・ テレビを見る時間やパソコンゲームをする時間は、市の平均と同じ傾向にあるが、読書時間は、市の平均では、平日「30分くらい」が高い割合であるのに対し、本校では「10分くらい」が高い割合となっている。図書室の利用機会を増やし、日ごろから本に触れられるように指導していきたい。
- ・ 学校がある日の就寝時間については、8割の児童が午後9時頃までに寝て、6時30分までに起きており、健康的な生活を送っているといえる。しかし、「朝、自分で起きることができるか」は、肯定割合が低い傾向にある。今後も継続して、早寝早起きの大切さを指導し、自立できるように家庭とも連携を図りたい。
- ・ 自分の携帯電話を持っている児童が2割強おり、「携帯電話を使うときのルールを家の人と決めているか」の肯定割合は、8割であった。携帯電話を持っているものの、「ほとんどしない」という状況であった。それでも使うときのルールについては全員が各家庭で話し合うことを勧めたい。
- ・ 朝ごはんについては、全員が食べてきている。好き嫌いなく食べる児童も増えており、好ましい傾向にあり、また、「運動が好き」や「健康や体力に自信がある」の割合も高く、遊びを運動と捉えている児童が多い。パソコンやテレビゲームをすることもあるが、体を動かす楽しさも分かっており、様々な遊びを紹介するなどして引き続き意欲を保つことが必要であろう。